

5月16日から6月1日まで

館内では美術部による「春の陣」がはじまりました。
美術部の作品展は年2回春と冬におこなわれていますが
今回も1年生から6年生までの作品が並んでいます。

普段はあまりメディアセンターを訪れることがない人も
ぜひこの機会に友達のを観にきてください！



■今月の新着図書から■



『難民に希望の光を 真の国際人』
緒方貞子の生き方』分類 289
中村恵／平凡社

国連高等弁務官事務所 (UNHCR) の弁務官として10年にわたり難民のために全力を注がれた緒方貞子さん。国際舞台で多くの課題と向き合い取り組まれたその生き方を、パーソナルアシスタントを務めた著者が若い人たちに伝えるよう執筆した入門書。



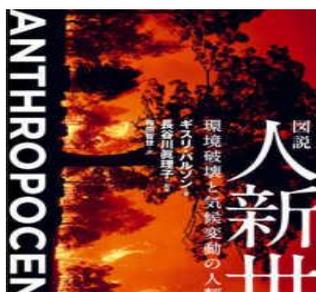
『核兵器禁止条約ってなんだろう?』319
川崎哲／旬報社

2017年に国連で採択された「核兵器禁止条約」。核兵器を作ること、持つこと、使うことも禁止したこの条約は、2021年に50カ国が批准し正式に発効しました。世界が核兵器をなくすために動く一方で日本は・巻末に条約の全部(英語)も掲載。とてもわかりやすい解説書です。



『科学のトリセツ』分類 400
元村有希子／毎日新聞出版

この本では著者が「科学は嫌い、苦手」という人にも“あんが楽しいものだな”と思ってもらえるよう、とっつきやすい項目や話題を選んでいます。例えば「牛乳がいつもある幸せ」や「非科学的なトランプ氏の発言」など、科学が身近にあることを感じさせてくれますよ。



『人新世』519
ギスリ・パルソン／東京書籍

人新世 (Anthropocene) は「人」を意味する「Anthropo」と地層年代の世を意味する「cene」を組み合わせた語です。現在の人間の活動が及ぼす影響が過去の地質年代とは大きく異なり、まぎれもなく「悪」といわれるのはなぜでしょうか。そしてこの先の未来に希望があるのか？現在地から人新世を考えます。



『世界が青くなったら』分類 913
武田綾乃／文藝春秋

自分が今いる世界とは違う世界があり、そこではまったく違う日常を自分が過ごしている、という「並行世界」の物語。主人公の佳奈は、朝起きたら恋人の亮は消え、思い出の品も友達の記憶からも彼の痕跡は消えていた。彼は実在しない人だったの?!そんな佳奈は夢で見た「奇跡のおこる店」に行くと…



『言葉の花』分類 914
サヘル・ローズ / 講談社
イラン出身のサヘルさん。テレビで見る彼女は明るくて自分の意思をしっかりと持っている印象でした。でも孤児として養母にひきとられ、差別やいじめに直面しながらも今の自分を築いてきたことが、まっすぐな言葉から伝わってきます。多様性を大切にするISS生の皆さんにはぜひ読んで欲しいです。

ご存知ですか?館内のこのコーナー

●卒業生の『特別入試報告書』

雑誌コーナーの棚の上に、進路指導部から預かった卒業生の「特別入試報告書」のファイルを並べています。指定校、公募制、総合型等の面接・学科試験の報告書なので、こうした進路を考えている人は参考にしてください。

国公立、私立にわけてわかりやすくファイリングしてあります。なお、いずれも持ち出しはできません。館内でのみの閲覧です!



●5月の主な館内図書展示

「鳥の本大集合!」図書展

5月の第二土曜日は国連の「世界渡り鳥デー」です。この日にあわせ、館内では「鳥」に関する本を大集合しています。本物の鳥の巣も一緒に展示していますので、どの鳥の巣なのか調べてみてくださいね!



- 『ばくの鳥の巣コレクション』鈴木まもる 岩崎書店
- 『日本の野鳥さえずり・地鳴き図鑑』植田睦之 メイツ出版
- 『道具を使うカラスの物語』パメル・S・カーター 緑書房
- 『ハンビロコウのすべて』今泉忠明 廣済堂
- 『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ』川上和人
この他多数展示中!



「今、世界の海は・・・

～海洋プラスチックごみから考える～」図書展

SDGsの目標14は「海の豊かさを守ろう」。海洋汚染の原因には海に廃棄物が捨てられる他に、陸上での人間の活動が大きく関係しているといわれています。その一つにプラスチックゴミに関連した海の環境についての本を展示中です!



▲カウンター前の展示

- 『海洋プラスチックごみ問題の真実』磯辺篤彦
- 『脱プラスチックへの挑戦!』堅達京子大和溪谷社
- 『海はゴミ箱じゃない!』眞 淳平 岩波書店
- 『プラスチック惑星・地球』藤原幸一 ポプラ社
- 『散乱ペットボトルのツケは誰が払うのか』栗岡理子

本棚 四月から館内に展示している「ウクライナとロシアを理解する本」コーナーですが、場所をうつつして現在も展示を続けています。ここには以前ノーベル文学賞を受賞したスヴェトラナ・アレクシエーヴィチの『戦争は女の顔をしていない』の日本語版と漫画版もあります。残念ながら購入してから誰にも借りられませんでした。この度のロシアのウクライナ侵攻にあわせ、こうした本も借りられるようになりました。ニュースをみて、ウクライナ情勢に関心を寄せている人たちがいることを感じていきます。『おおきなかぶ』など、国境を超えて世界中の子どもの心をなやませている両国の絵本も並べています。ウクライナの子どものために、こうした絵本を穏やかな気持ちで手にとることができるようになる日はいつになるのでしょうか(渡邊)